



# 2019年度（2020年2月期）第3四半期 （2019.3.1～2019.11.30）決算説明会



**イオンモール株式会社**  
(東証1部:8905)

2020年1月9日



## 2019年度第3四半期 決算説明会

### 2019年度第3四半期 決算概要

連結業績概要	P 3
セグメント別営業利益	P 4
海外 業績推移	P 5
海外 既存モール専門店売上前期比	P 6
海外 中国 2019年度既存モールリニューアル/新規モール	P 7
海外 アセアン 2019年度既存モールリニューアル	P 8
海外 収益拡大の施策（需要喚起の取り組み）	P 9
海外 収益拡大の施策（専門店サポート）	P 10
日本 既存79モール専門店売上前期比	P 11-12
日本 2019年度既存モールリニューアル	P 13
日本 ブラックフライデー	P 14
日本 ローカリゼーションの推進	P 15
日本 都市型ショッピングセンター事業	P 16
ESGの取り組み	P 17
損益計算書（要約）	P 18
貸借対照表（要約）	P 19
キャッシュ・フロー計算書（要約）	P 20

### 今後の取り組み

海外 新規モール	P 22
海外 成長の取り組み	P 23-24
日本 国内事業の取り組み	P 25
モールづくりの方向性（ヘルス&ウエルネス）	P 26
モールづくりの方向性（デジタル化の推進）	P 27-28
モールづくりの方向性（地域のプラットフォーム）	P 29

### 2019年度連結数値計画

連結業績計画/株主還元	P 31
国際財務報告基準IFRSの最新基準 IFRS第16号適用の影響	P 32

### 国際財務報告基準「リース」について（IFRS第16号）

IFRS第16号の概要	P 34
2019年度財務諸表への影響	P 35

添付資料	P 37-41
------	---------

当連結会計年度より、国際財務報告基準（IFRS）に準拠した財務諸表を連結している在外子会社において、IFRS第16号「リース」（以下、IFRS第16号という）を適用しています。2019年度計画値および実績値は、適用後数値で表示しており、遡及適用はしないため、前期比は同基準適用前の実績値との比較で表示しています。

# 2019年度第3四半期 決算概要

## 連結業績概要

営業収益、各利益とも過去最高を更新し、増収増益を達成

(参考)

(単位：百万円、%)

	2019年度 3Q実績	2018年度 3Q実績	前期比		2019年度 通期計画	達成率	IFRS第16号影響		
			増減	%			影響額	影響額控除後	前期比
営業収益	240,573	231,126	+9,446	104.1	326,000	73.8	-	240,573	104.1
営業原価	177,137	175,372	+1,765	101.0	-	-	▲ 3,919	181,056	103.2
営業総利益	63,435	55,754	+7,681	113.8	-	-	+3,919	59,517	106.7
販管費	21,169	20,265	+904	104.5	-	-	▲ 25	21,194	104.6
営業利益	42,265	35,488	+6,777	119.1	62,000	68.2	+3,943	38,322	108.0
経常利益	36,783	34,690	+2,092	106.0	54,000	68.1	▲ 869	37,652	108.5
親会社株主に帰属する 四半期純利益	23,503	22,604	+899	104.0	33,700	69.7			
1株当たり 四半期純利益(円)	103.31	99.38	-	-	148.15	-			

総資産	1,394,735
自己資本	377,768
EBITDA	84,920

自己資本比率(%)	27.1
D/Eレシオ(倍)	1.7
ネットD/Eレシオ(倍) ※	1.6

[参考] IFRS第16号適用の影響を控除

自己資本比率(%)	30.0
D/Eレシオ(倍)	1.4
ネットD/Eレシオ(倍)	1.2

	オープン数 ※1	店舗数 (2019年11月30日現在)
日本	1	142 ※2
中国	2	21
カンボジア	0	2
ベトナム	0	4
インドネシア	0	2
モール計	3	171
都市型ショッピングセンター(OPA)	1	24

※1 2019年3月1日から2019年11月30日までにオープンしたモール数。  
 ※2 イオンリテール(株)の大型商業施設58SCの管理・運営業務受託を含む。  
 なお、2019年9月1日付で12SCの管理・運営業務受託を終了しました。

※ネットD/Eレシオ = (有利子負債 - 現預金) / 自己資本

## セグメント別営業利益

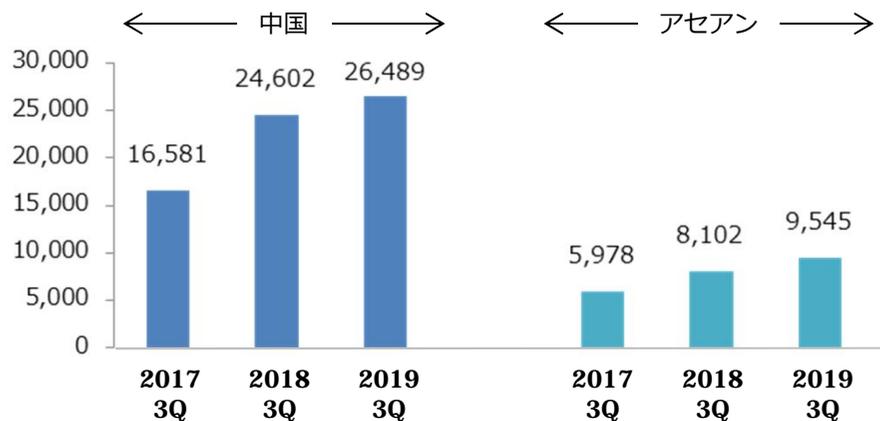
(単位：百万円)

	評価	3Q実績			IFRS第16号影響			
		前期実績	前期差	影響額	控除後3Q実績	前期差		
国内	モール	○	36,877	35,779	+1,098	-	36,877	+1,098
	都市型SC	△	▲756	▲630	▲126	-	▲756	▲126
海外	中国	○	4,107	▲469	+4,577	+3,585	521	+991
	アセアン	◎	2,019	791	+1,227	+358	1,660	+869
調整額		-	18	18	-	-	18	-
合計		○	42,265	35,488	+6,777	+3,943	38,322	+2,833

- 国内モール事業は、専門店売上が既存前期比+2.3%と堅調に推移。営業利益が前期比+1,098百万円の増益となり、都市型SC事業をカバー。
- 都市型SC事業は、活性化効果が出始め、既存店売上はプラストレンドで推移。活性化効果により、専門店売上は既存前期比+3.7%と回復基調にあり、第4四半期以降利益改善を見込む。
- 海外事業は、中国、アセアンとも2桁トレンドの売上成長を維持。IFRS第16号影響を除いても+18億円（中国+9億円、アセアン+8億円）の増益。

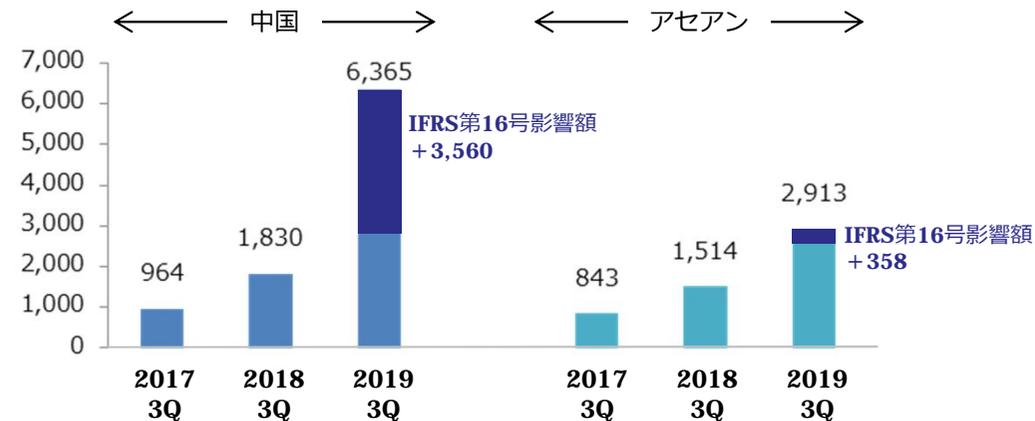
- ・中国、アセアンともに**営業利益黒字化（IFRS第16号影響を除いても黒字化）**を達成。
- ・利益改善額は**+58億円（中国+45億円、アセアン+12億円）**。
- ※IFRS第16号影響控除後では**+18億円（中国+9億円、アセアン+8億円）**
- ・**営業キャッシュ・フローは210億円**。

### 営業収益



### 営業総利益

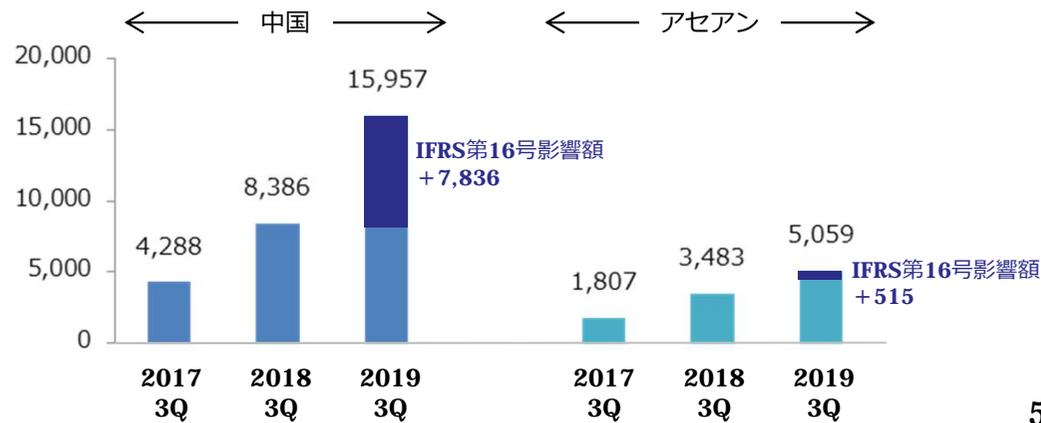
単位：百万円



### 営業利益



### 簡易営業CF



## ■中国 2019年度既存17モール前期比

	中国					
	1-9月			10月	11月	
	1-3月	4-6月	7-9月			
専門店売上	110.0%	111.1%	109.3%	110.1%	111.4%	110.5%
来店客数	103.5%	104.9%	103.2%	103.9%	107.2%	106.3%

- 日本で培ったオペレーション・ノウハウや日本同等のモール環境、計画的なリニューアル実施により、既存モールの専門店売上は前期比2桁水準の伸び率を維持。
- 国全体のマクロトレンドを上回る成長を持続させることが可能。

## ■アセアン 2019年度既存モール前期比

	ベトナム（既存4モール）					
	1-9月			10月	11月	
	1-3月	4-6月	7-9月			
専門店売上	107.1%	116.7%	125.3%	116.4%	144.6%	152.2%
来店客数	103.5%	104.6%	106.4%	104.9%	121.6%	125.9%

- アセアンは、高いマクロ経済成長率に加え、マーケットニーズに応じたリニューアルを機動的に実施することで、既存モールの専門店売上は前期比2桁を超える水準で成長。

	カンボジア（既存1モール）					
	1-9月			10月	11月	
	1-3月	4-6月	7-9月			
専門店売上	94.3%	104.0%	119.7%	105.0%	108.3%	120.7%

※インドネシアは、現地の商慣習上、売上報告がない専門店が多く記載していません。

【アジアにおける成長機会の獲得】

## 海外 中国 2019年度既存モールリニューアル

### ①イオンモール蘇州新区

2019年4月30日リニューアルオープン



計112店舗をリニューアル(新規専門店35店舗)

### ②イオンモール武漢經開

2019年5月1日リニューアルオープン



計101店舗をリニューアル(新規専門店78店舗)

### ③イオンモール広州番禺広場

2019年5月1日リニューアルオープン



計47店舗をリニューアル(新規専門店33店舗)

### ④イオンモール杭州良渚新城

2019年5月24日リニューアルオープン



計46店舗をリニューアル(新規専門店23店舗)

### ⑤イオンモール蘇州吳中

2019年9月28日リニューアルオープン



オープン日：2014年4月25日  
敷地面積：114,000㎡  
総賃貸面積：75,000㎡  
専門店数：200店舗  
駐車台数：3,100台

#### <リニューアルの特徴>

アパレルや宝飾、生活雑貨、デジタル家電など、話題性と上質感を体感できる専門店を導入

新規	移転	改装	合計
26店舗	5店舗	16店舗	47店舗

【アジアにおける成長機会の獲得】

## 海外 中国 2019年度新規モール

### イオンモール常熟新区 2019年6月28日オープン



敷地面積：126,000㎡ 総賃貸面積：63,000㎡  
専門店数：180店舗 駐車台数：3,800台

#### <最新デジタル技術を活用した取り組み>

スマートフォンアプリを通じて最新デジタル技術を駆使した利便性の高いサービスを提供。



バーチャル試着



駐車場所検索



館内案内ロボット



### 【中国】ダブル11（独身の日）

- オンラインショップの最大商戦となる独身の日(11月11日)にあわせてセールを実施。
- 単日売上は元日（1月1日）に次ぐ売上実績。



イオンモール蘇州吳中では、モールを起終点とする毎年恒例のミニマラソン大会を独身の日キャンペーン期間（11月9日～11日）に開催。約3,000人が参加。



### 【アセアン】ブラックフライデー

- ベトナムは2回目、カンボジア、インドネシアは初開催。11月29日から12月1日の3日間実施。
- 日本と同様、スペシャルノベルティ企画やイオンカード利用時10%割引などで集客を図る。



## ロールプレイングコンテスト

〇 接客サービスレベルの向上、モール従業員全体のスキルアップを目的に、中国・アセアンで開催。



## 【中国】イオンモールテナント交流会

- 〇 企業数**168社**（前回比**144%**）、人数**268名**（前回比**133%**）が参加。
- 〇 現地テナント企業とのリレーション構築により、中国事業の成長・経営基盤拡充、日本・アセアンへの出店につなげる。



当社の中国事業の現状と施策、今後の計画について説明



アリババグループ副總裁の肖利華氏による「ニューリテール（新小売）」をテーマとした講演

## 日本 既存79モール専門店売上前期比

専門店売上	2018年度				
	1Q	2Q	3Q	4Q	通期
曜日調整前	100.1%	101.5%	101.9%	102.3%	101.5%
土日祝数	±0	▲1	±0	+1	±0
曜日調整後	100.1%	102.5%	101.9%	101.5%	101.5%
レジ客昨対 ※	99.7%	101.7%	102.3%	102.4%	101.6%
客単価昨対 ※	100.5%	99.8%	99.7%	99.9%	100.0%
駐車台数	99.9%	100.5%	100.4%	100.8%	100.4%
来店客数	98.7%	99.5%	100.6%	101.6%	100.0%

※GMS等、アンカーテナントの数値は含んでおりません。

	2018年度				
	1Q	2Q	3Q	4Q	通期
専門店合計	100.1%	101.5%	101.9%	102.3%	101.5%
大型専門店小計	102.2%	104.1%	104.4%	105.9%	104.2%
衣料品	98.0%	98.2%	98.4%	98.7%	98.3%
服装品	97.8%	99.0%	99.2%	98.0%	98.5%
雑貨	106.0%	106.0%	104.8%	102.7%	104.8%
ホビー	101.7%	102.1%	101.6%	100.1%	101.4%
食品	102.8%	105.0%	104.8%	104.6%	104.3%
飲食	100.9%	102.5%	101.8%	101.4%	101.6%
アミューズメント	92.4%	101.3%	111.3%	121.3%	105.2%
（内、シネマ）	93.3%	99.9%	119.6%	139.9%	105.6%
サービス	101.9%	101.8%	105.4%	107.1%	103.9%
中小専門店小計	99.9%	101.2%	101.6%	101.8%	101.1%

2019年度							
1Q	2Q	上期	9月			3Q	3Q累計
			9月	10月	11月		
102.5%	102.5%	102.5%	110.4%	95.5%	100.5%	102.1%	102.3%
+3	+2	+5	▲1	+1	+1	+1	+6
100.0%	100.9%	100.5%	112.9%	93.0%	98.0%	101.2%	100.7%
101.6%	102.3%	101.8%	103.4%	98.9%	103.1%	101.8%	101.8%
100.9%	100.2%	100.6%	106.7%	96.6%	97.5%	100.2%	100.5%
100.7%	101.2%	100.9%	102.7%	98.2%	101.1%	100.7%	100.9%
101.1%	101.3%	101.2%	102.7%	98.4%	100.5%	100.5%	101.0%

2019年度							
1Q	2Q	上期	9月			3Q	3Q累計
			9月	10月	11月		
102.5%	102.5%	102.5%	110.4%	95.5%	100.5%	102.1%	102.3%
106.4%	103.4%	104.9%	127.6%	91.2%	98.4%	105.8%	105.2%
100.1%	97.6%	98.9%	97.0%	93.3%	99.4%	96.7%	98.1%
98.9%	98.6%	98.8%	121.6%	87.3%	94.3%	101.3%	99.6%
104.3%	105.8%	105.0%	123.4%	97.9%	102.6%	107.9%	105.9%
102.0%	103.3%	102.6%	113.7%	98.3%	103.1%	105.1%	103.4%
104.1%	107.6%	105.8%	111.1%	107.6%	111.8%	110.2%	107.2%
101.5%	102.0%	101.8%	101.6%	98.5%	103.0%	101.1%	101.6%
105.8%	119.3%	112.9%	109.1%	110.8%	106.3%	108.7%	111.7%
103.1%	127.9%	116.2%	110.5%	118.4%	108.5%	112.0%	115.1%
105.8%	101.9%	103.8%	110.3%	94.1%	98.1%	100.8%	102.8%
102.0%	102.4%	102.2%	108.0%	96.1%	100.8%	101.6%	102.0%

○ 9月は消費増税前の駆け込み需要から大幅伸長した業種があり（家電+67.5%、家具+35.8%、時計+33.0%、化粧品+40.0%等）、全体で+10.4%伸長。

○ 10月は▲4.5%と反動減の影響が出たが、11月は+0.5%と前期並みトレンドに復調。

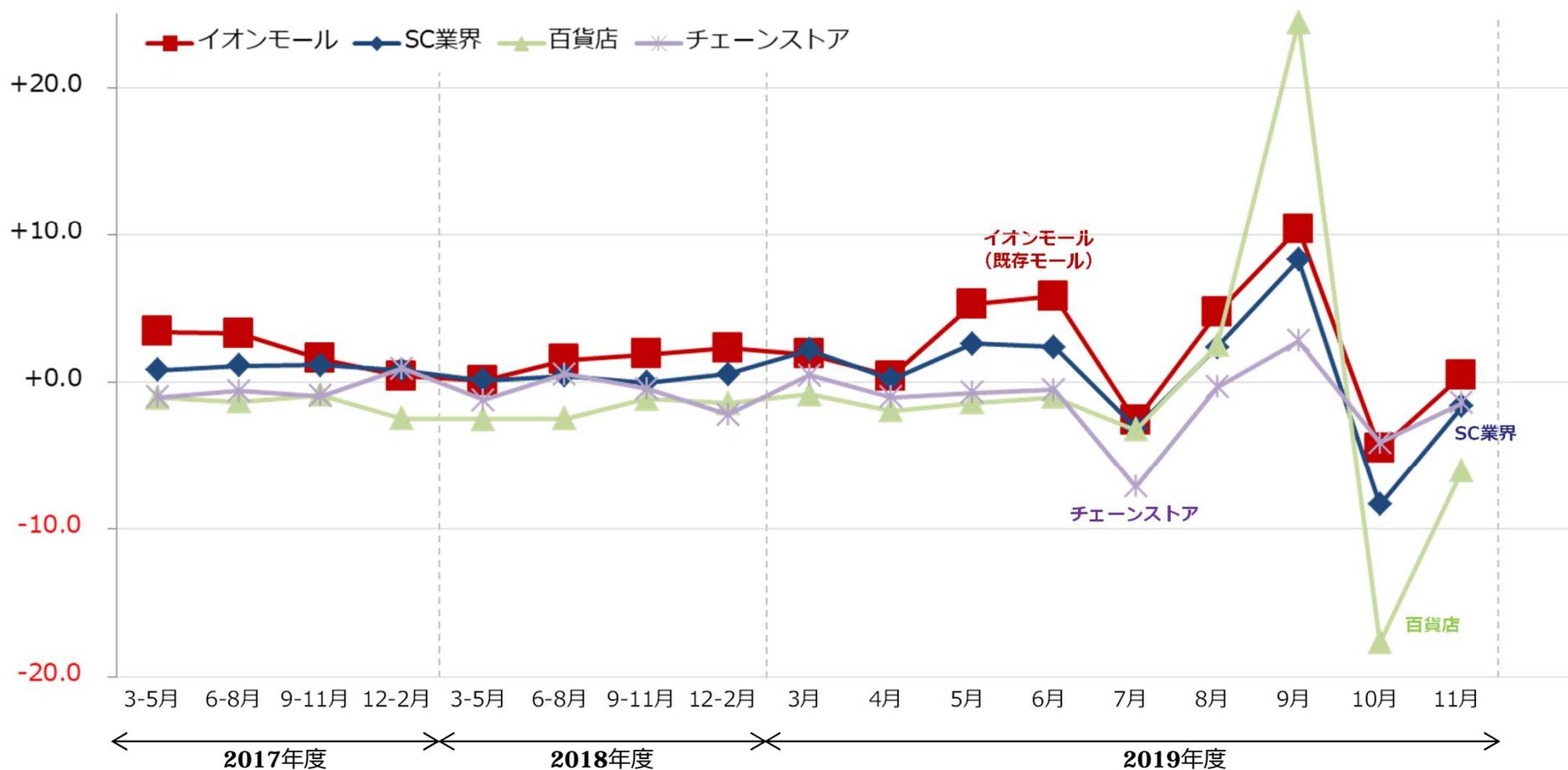
日本 既存79モール専門店売上前期比（業界比較）

■売上高前年対比（イオンモール、SC業界、百貨店、チェーンストア）

※SC業界、百貨店、チェーンストアの2017年度および2018年度の3ヶ月平均値は、各月の単純平均で算出。

※イオンモールの前期比は曜日調整前。

※百貨店は、インバウンド影響を除く。



出典：(社)日本ショッピングセンター協会、日本百貨店協会、日本チェーンストア協会

前期（7モール）及び当期（15モール）にリニューアルを実施した  
既存22モールの専門店売上は **前期比+6.6%**

	モール名称	所在地	リニューアル日	専門店数	リニューアル 専門店数
1	イオンモールむさし村山	東京都武蔵村山市	3月20日 7月12日	180	83 21
2	イオンモール水戸内原	茨城県水戸市	3月21日	200	29
3	イオンモール東浦	愛知県知多郡東浦町	4月19日 7月30日	170	122 14
4	イオンモール名取	宮城県名取市	4月19日	240	121
5	イオンモール広島府中	広島県安芸郡府中町	4月19日	280	12
6	イオンモール成田	千葉県成田市	4月20日 7月12日	170	88 13
7	イオンモール春日部	埼玉県春日部市	4月20日	160	26

	モール名称	所在地	リニューアル日	専門店数	リニューアル 専門店数
8	イオンモール沖縄ライカム	沖縄県中頭郡北中城村	4月26日	240	18
9	イオンモール神戸北	兵庫県神戸市	4月26日	160	23
10	イオンモールつくば	茨城県つくば市	4月26日	200	32
11	イオンモール堺鉄砲町	大阪府堺市	4月27日	160	21
12	神戸ハーバーランドumie	兵庫県神戸市	7月12日 9月12日	230	26 16
13	イオンモール高岡	富山県高岡市	9月14日	200	104
14	イオンモール福岡	福岡県糟屋郡粕屋町	10月25日	220	100
15	イオンモール羽生	埼玉県羽生市	11月1日	210	20

## イオンモール高岡 2019年9月14日 増床リニューアルオープン



### <増床リニューアルの特徴>

- ・大型ファッション専門店の集積、最新の体験型アミューズメント施設を導入
- ・フードコートは1,400席で北陸最大級の規模で展開

**増床後の専門店売上前期比 177.0%**

(期間：2019年9月14日～2019年11月30日)

オープン：2002年9月  
敷地面積：205,000㎡ (+60,000㎡) 総賃貸面積：82,000㎡ (+19,000㎡)  
駐車台数：4,400台 (+800台) 専門店数：200店舗 (+70店舗)

日本 ブラックフライデー

# イオンモール ブラックフライデー

11月22日～11月26日の5日間、全国のイオンモールで実施



集客強化策として、オリジナルノベルティ企画やカード決済時のポイント5倍キャンペーンを実施。



**期間中の来店客数は108.5%、専門店売上は106.9%と好調に推移**

(注) いずれも曜日調整後。前年は11月23日から25日の3日間開催。数値比較は11月22日から26日の5日間対比。

日本 ローカリゼーションの推進

# ハピネスモール

AEON MALLは、  
ハピネスモールをめざして。

イオンモールは、お客さまにとっての「しあわせ」が生まれる場でありたい。  
地域の皆さまが「しあわせ」を感じる暮らしを、人生を送ることができるように。

日々のお買い物はもちろん、さまざまな取り組みを通じて、  
もっと「しあわせ」を感じられる場「ハピネスモール」をめざしていきます。

## イオンモール「究極のローカライズ2019」

全国各地のモールが「産」（企業）、「学」（教育機関）、「官」（行政）、「民」（団体）、「文」（文化・歴史）、「品」（産品）の6ジャンルとコラボレーションすることで、「地域の魅力を磨き続ける究極の取り組み（＝ローカライズ）」を推進。5年目となる本年は、全国のモールで勤務する若手社員から**297**企画が考案され、その中から**11**企画を厳選し実施。



イオンモール津南  
目指せ津まつりファイナルステージ！！よさこいプロジェクト

## 春日部市と包括的連携に関する協定を締結

### ＜協定名称＞

春日部市とイオンモール株式会社との包括的連携に関する協定書

### ＜趣旨＞

春日部市（埼玉県）とイオンモール春日部が連携協力事業を行い、春日部市内の一層の活性化をめざす

### ＜連携・協力事項＞

- ①子育て・教育の推進に関すること
- ②福祉・保健・医療の支援に関すること
- ③市民参加・文化・スポーツの振興に関すること
- ④環境・防災・生活の推進に関すること
- ⑤観光・産業・経済の振興に関すること
- ⑥都市基盤の充実にに関すること
- ⑦行財政の推進に関すること
- ⑧その他、地域の活性化及び市民サービスの向上等に関すること

### ＜締結日＞

2019年10月6日



## ■リニューアル推進による収益力改善

既存店において、アパレル中心のMDを見直し、欠落カテゴリーの導入や業種入替による抜本的リニューアルを継続実施。

### 名古屋mozoオーパ

2019年10月18日リニューアルオープン

2009年4月にオープンした「名古屋ワンダーシティビブレ」を「名古屋mozoオーパ」としてリニューアルオープン。



### キャナルシティオーパ

2019年11月1日リニューアルオープン

2階の旧レディースフロアを、メンズの最新トレンドも取り入れたユニセックスフロアへリニューアル。



## ■所有、管理・運営スキーム変更による利益改善

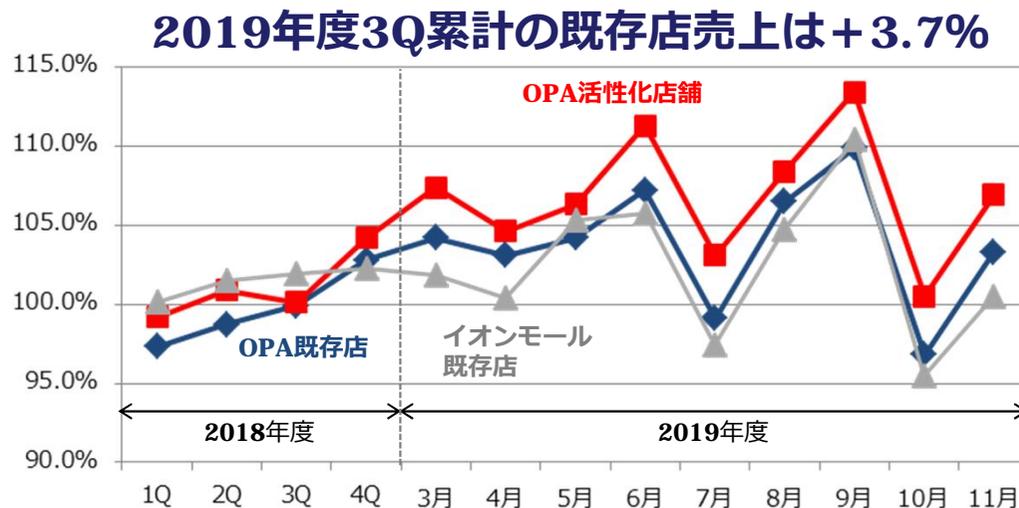
所有形態の変更や戦略的S&B、リファイニングを推進。

### 株式会社横浜インポートマートの株式取得

- 横浜ワールドポーターズの運営会社である株式会社横浜インポートマートの株式を横浜市等から取得。
- 同施設は従来OPAがワールドポーターズビブレを部分的に運営。今後、施設全体を一括で管理・運営することで、施設全体の活性化による集客向上およびオペレーション効率化を推進。



<OPA 既存専門店売上前期比>



### 天神ビブレ 戦略的S&B（天神ビッグバンプロジェクト）

- 福岡市による天神・博多エリアの再開発「天神ビッグバンプロジェクト」の推進に当たり、天神ビブレを2020年2月11日をもって一旦営業終了。
- 福ビル街区建替プロジェクトで新たに誕生する巨大複合ビルの地下飲食・食物販ゾーンへ出店予定。



2019年12月7日より閉店セールを実施

ESGの取り組み

■脱プラスチックの取り組み

<日本>

- イオンレイクタウン、イオンモール幕張新都心の2モールをパイロット店舗として、飲食・食品店舗におけるプラスチックストローから紙製ストローへの切り替えを推進。
- 2020年3月より全国のモールへの展開を予定。



<海外>

- ベトナムでは、6月の「世界環境の日」を皮切りに、毎月5日・20日にプラスチック素材以外のストローを使用する取り組みを既存4モールで開始。
- 毎月5日・20日に150万ドン以上お買上げのメンバーズカードをお持ちのお客さまにエコバッグを配布。



■イオンモール セン ソック シティ カンボジア環境大臣より感謝状授与

イオンモール セン ソック シティにおける

- 環境保護に対する取り組み
- 天然資源の管理
- 生物多様性の保全と持続可能性な生活

といった環境への取り組みが、カンボジアのショッピングモールにおいて模範的な実践事例として評価。



損益計算書 (要約)

(単位:百万円)

連結 (百万円)	2020年2月期 第3四半期	比率	2019年2月期 第3四半期	比率	増減率	前年増減額	前期比増減要因
営業収益	240,573	100.0%	231,126	100.0%	104.1%	+9,446	・日本 新規5モール +2,254 百万円 ・日本 既存79モール +2,937 百万円 ・日本 都市型ショッピングセンター(OPA) +1,480 百万円 ・日本 その他 ▲554 百万円 ・海外 +3,329 百万円
営業原価	177,137	73.6%	175,372	75.9%	101.0%	+1,765	・日本 新規5モール +2,904 百万円 ・日本 既存79モール +743 百万円 ・日本 都市型ショッピングセンター(OPA) +1,298 百万円 ・日本 その他 ▲577 百万円 ・海外 ▲2,603 百万円 (内、IFRS第16号影響額: ▲3,918百万円)
営業総利益	63,435	26.4%	55,754	24.1%	113.8%	+7,681	・日本 新規5モール ▲650 百万円 ・日本 既存79モール +2,193 百万円 ・日本 都市型ショッピングセンター(OPA) +181 百万円 ・日本 その他 +22 百万円 ・海外 +5,933 百万円
販売費及び一般管理費	21,169	8.8%	20,265	8.7%	104.5%	+904	・日本 モール(OPA除く) +467 百万円 ・日本 都市型ショッピングセンター(OPA) +307 百万円 ・海外 +128 百万円 (内、IFRS第16号影響額: ▲25百万円)
営業利益	42,265	17.6%	35,488	15.4%	119.1%	+6,777	・IFRS第16号影響額 +3,943 百万円
営業外収益	3,324	1.4%	2,987	1.2%	111.3%	+336	・差入保証金評価替 +308 百万円 ・為替差益 +401 百万円 ・受取利息 +111 百万円 ・テナント受取退店違約金 +251 百万円 ・デリバティブ評価益 ▲372 百万円 ・補助金収入 ▲264 百万円
営業外費用	8,806	3.7%	3,785	1.6%	232.6%	+5,021	・支払利息 +4,881 百万円 (内、IFRS第16号影響額: +4,889百万円) ・社債発行費用 +17 百万円 ・為替差損 ▲182 百万円 ・デリバティブ評価損 +266 百万円
経常利益	36,783	15.3%	34,690	15.0%	106.0%	+2,092	・IFRS第16号影響額 ▲869 百万円
特別利益	1,950	0.8%	1,518	0.7%	128.4%	+431	
特別損失	2,568	1.1%	1,826	0.8%	140.6%	+741	
税金等調整前四半期純利益	36,164	15.0%	34,382	14.9%	105.2%	+1,782	
法人税等	12,510	5.2%	12,411	5.4%	100.8%	+99	
四半期純利益	23,654	9.8%	21,970	9.5%	107.7%	+1,683	
非支配株主に帰属する 四半期純利益または四半期純損失	150	0.0%	▲633	▲0.3%	-	+784	
親会社株主に帰属する四半期純利益	23,503	9.8%	22,604	9.8%	104.0%	+899	

※日本 新規5モール(2018年度オープン4モール、2019年度オープン1モール)

## 貸借対照表（要約）

(単位:百万円)

連結 (百万円)	2020年2月期 第3四半期	2019年2月期	前期末比 増減額	主な増減要因
現金及び預金	60,983	56,823	4,159	
関係会社預け金	56,600	-	56,600	・イオングループ余資運用
その他	58,376	45,768	12,608	
流動資産	175,959	102,592	73,367	
有形固定資産	1,099,303	940,593	158,710	・有形固定資産の取得 +83,660 百万円 ・減価償却費 ▲42,654 百万円 ・使用権資産 +124,737 百万円 (内、IFRS第16号影響額: +89,030百万円) (内、「投資その他の資産」から科目変更: +35,707百万円)
無形固定資産	3,527	3,638	▲111	
投資その他の資産	115,944	156,387	▲40,443	・差入保証金 ▲3,763 百万円 ・土地使用権 (有形固定資産へ振替) ▲37,619 百万円
固定資産	1,218,775	1,100,618	118,156	
資産	1,394,735	1,203,211	191,523	
未払法人税	4,888	7,879	▲2,990	
専門店預り金	85,241	41,931	43,309	
設備未払金	41,590	47,439	▲5,849	
その他	93,520	89,673	3,847	・営業未払金 ▲10,500 百万円 (内、IFRS第16号適用による未払費料取崩: ▲11,649百万円) ・1年内返済予定のリース債務 (IFRS第16号影響額) +11,333 百万円 ・コマースナル・ペーパー ▲6,000 百万円 ・1年内返済予定の長期借入金 +7,470 百万円
流動負債	225,240	186,923	38,316	
固定負債	781,437	622,228	159,209	・社債 +65,000 百万円 ・長期借入金 ▲12,355 百万円 ・預り保証金 +2,630 百万円 ・リース債務 +103,325 百万円 (内、IFRS第16号影響額: 103,342百万円)
負債	1,006,678	809,151	197,526	
純資産	388,056	394,059	▲6,002	・為替換算調整勘定 ▲7,425 百万円 ・利益剰余金 (IFRS第16号影響額) ▲12,985 百万円

自己資本	377,768	383,393	▲5,625
自己資本比率	27.1%	31.9%	▲4.8%
有利子負債	675,878	507,104	168,774
有利子負債比率	48.5%	42.1%	6.4%
デット・エクイティ・レシオ(倍)	1.7	1.3	0.4
ネット・デット・エクイティ・レシオ(倍)	1.6	1.1	0.4

【参考】

自己資本比率	30.0%	31.9%	▲1.9%
有利子負債比率	43.8%	42.1%	1.7%
デット・エクイティ・レシオ(倍)	1.4	1.3	0.1
ネット・デット・エクイティ・レシオ(倍)	1.2	1.1	0.1

※IFRS第16号適用の影響を控除。

【有利子負債増減】

(単位:百万円)

	2020年2月期 第3四半期	2019年2月期	前期末比 増減額
コマースナル・ペーパー	-	6,000	▲6,000
1年内償還予定の社債	15,000	15,000	-
1年内返済予定の長期借入金	31,486	24,015	7,470
社債	300,000	235,000	65,000
長期借入金	214,604	226,960	▲12,355
小計	561,090	506,975	54,115
リース債務	114,788	128	114,659
総計	675,878	507,104	168,774

## キャッシュ・フロー計算書 (要約)

(単位:百万円)

連結 (百万円)	2020年2月期 第3四半期	2019年2月期 第3四半期	前年増減額	主な項目
営業活動による キャッシュ・フロー	106,426	70,689	35,737	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 税金等調整前四半期純利益 36,164 百万円 (内、IFRS第16号影響額: ▲869百万円)</li> <li>・ 減価償却費 42,654 百万円 (内、IFRS第16号影響額: 9,220百万円)</li> <li>・ 専門店売上預り金 42,984 百万円</li> <li>・ 法人税等の支払額 ▲15,165 百万円</li> </ul>
投資活動による キャッシュ・フロー	▲ 85,002	▲ 128,568	43,566	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 有形固定資産の取得 ▲78,095 百万円</li> <li>・ 長期前払費用の取得 ▲2,072 百万円</li> <li>(海外土地使用权等)</li> <li>・ 預り保証金の増加(NET) 2,400 百万円</li> </ul> <p style="text-align: right;">} ※設備投資 80,167百万円</p>
財務活動による キャッシュ・フロー	36,674	87,654	▲ 50,979	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 短期借入金およびCPの増減 ▲6,000 百万円</li> <li>・ 長期借入による収入 4,500 百万円</li> <li>・ 長期借入金の返済による支出 ▲9,048 百万円</li> <li>・ 社債発行による収入 80,000 百万円</li> <li>・ 社債償還による支出 ▲15,000 百万円</li> <li>・ 配当金の支払額 ▲8,872 百万円</li> <li>・ リース債務の返済による支出 (IFRS第16号影響額) ▲8,311 百万円</li> </ul>
現金及び現金同等物 期末残高	109,771	81,137	28,634	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ IFRS第16号適用の影響額 - 百万円</li> </ul>

# 今後の取り組み

海外 新規モール

【中国】

**イオンモール青島西海岸新区** 2019年11月28日グランドオープン



敷地面積 : 65,000㎡    総賃貸面積 : 70,000㎡  
 駐車台数 : 2,600台    専門店数 : 240店舗

- Ø 国際的なリゾート地である青島市において、国内9番目の国家級新区として設立されたエリアに立地。
- Ø 専門店に顔認証レジシステムを新たに導入するなど、デジタルを活用した利便性の高いサービスを提供。



【ベトナム】

**イオンモール ハドン** 2019年12月5日グランドオープン



敷地面積 : 98,000㎡    総賃貸面積 : 74,000㎡  
 専門店数 : 220店舗    駐車台数 : バイク 9,000台, 車 2,100台

- Ø 全220店舗の約40%において、ベトナム初、ハノイ初、ショッピングモール初出店となる専門店およびブランドを導入。
- Ø 若手ファッションデザイナーの手がけるブランドによるチャレンジ出店ゾーンを展開。



海外 成長の取り組み

■ 2020年度以降オープン予定

※リリースしている物件のみ記載しています。

中国	オープン日	総賃貸面積	駐車台数	専門店数
(仮称) イオンモール広州新塘	2021年度	約 75,000 m <sup>2</sup>	約 3,500 台	未公表
ベトナム	オープン日	総賃貸面積	駐車台数	専門店数
イオンモールハイフォンレチャン	2020年度下期	約 74,000 m <sup>2</sup>	車 約 2,100 台 バイク 約 9,000 台	約 200 店舗
カンボジア	オープン日	総賃貸面積	駐車台数	専門店数
イオンモールカンボジア3号店	2023年度	未公表	未公表	未公表
インドネシア	オープン日	総賃貸面積	駐車台数	専門店数
イオンモールセントウルシティ ※1	2020年夏	約 71,000 m <sup>2</sup>	車 約 3,000 台	約 250 店舗
(仮称) イオンモールタンジュンパラット	2020年度	約 42,000 m <sup>2</sup>	車 約 1,500 台	約 150 店舗
(仮称) イオンモールデルタマス	2022年以降	未公表	未公表	未公表

※1 建築工事スケジュールの変更に伴い、オープン予定時期を変更しました。

■ 青島市人民政府と「戦略連携に関する覚書」を締結

＜協定内容＞

1. イオンモールは青島市を重点市場及び重点投資エリアとし、将来5年以内に、更に3店舗以上の環境や施設、管理に優れた大型ショッピングセンターの開設に努力し、青島市消費市場が繁栄するよう積極的に貢献する。
2. 青島市はイオンモールを長期的、且つ安定的な戦略的パートナーとし、イオンモールの青島市における投資に対し、良好なビジネス環境、効率的なサービスとプロジェクト情報を提供する。且つ双方に良好な提携条件を創造する。



■ 今後のリニューアル予定モール

＜中国＞



＜アセアン＞



## 海外 成長の取り組み

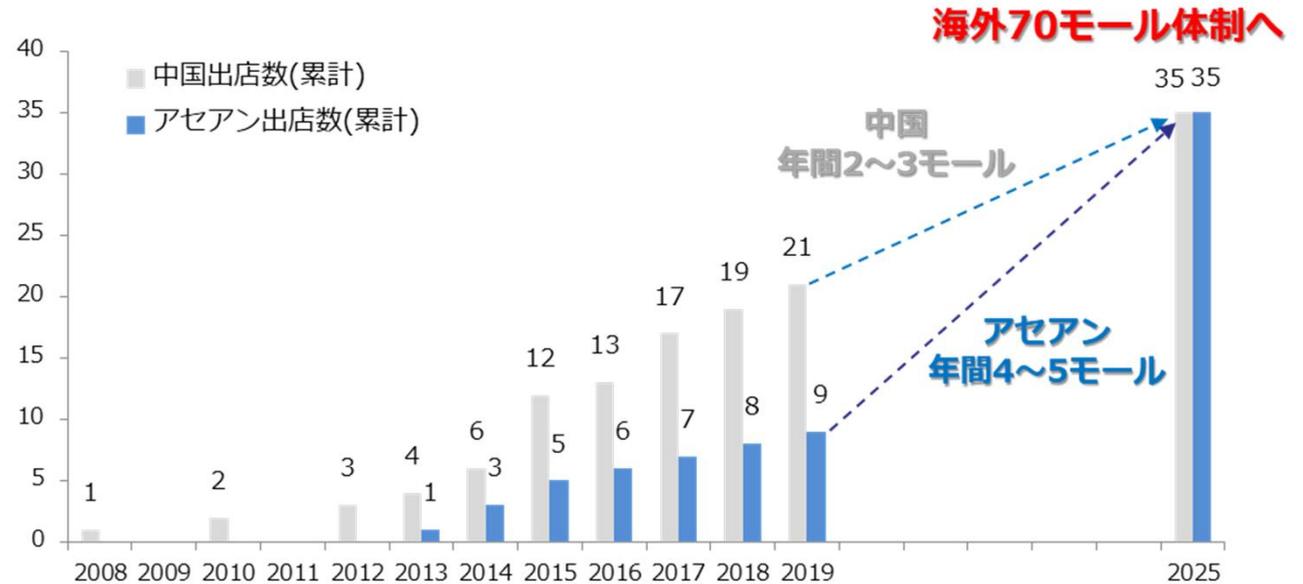
### ■ 海外の成長戦略

#### <中国>

- ・新店は成長力の高いエリア（内陸）を中心に年間2～3モールペースでの安定出店。
- ・定借満了に伴う既存モール活性化によって、中国マクロトレンドを上回る成長を継続。

#### <アセアン>

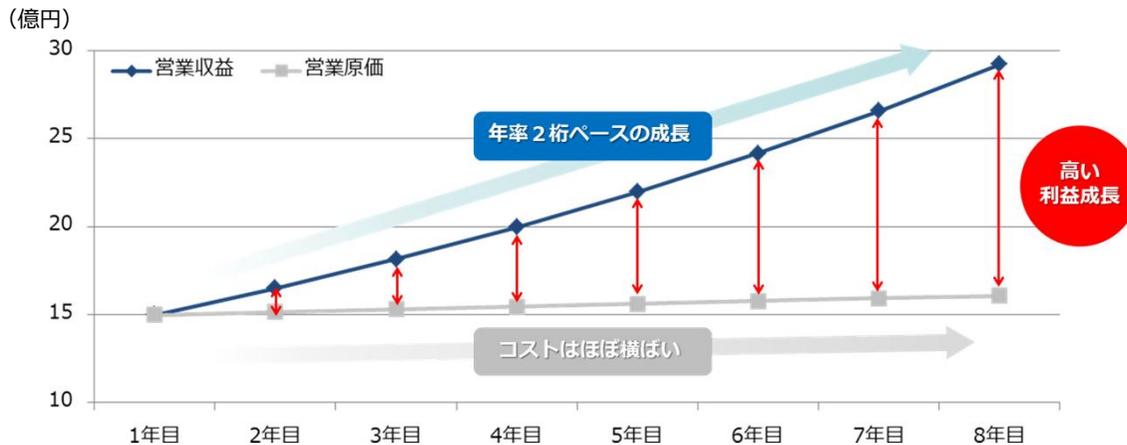
- ・新店は年間4～5モールペースで積極出店。
- ・特に人口規模が大きく、高い経済成長性が見込まれるベトナムにおける出店を加速。



### ■ 海外モール 成長モデル

営業原価の大部分は不動産コストであるため、コストはほぼ一定で推移。営業収益は売上増加に伴う歩合家賃収入と賃料改定で伸長。

専門店契約満了となる3年目以降も、活性化を行うことで更なる利益改善が見込まれ、7～8年目には日本のモールと同水準の利益計上の見込み。



### ■ 海外既存モール 2018年度実績

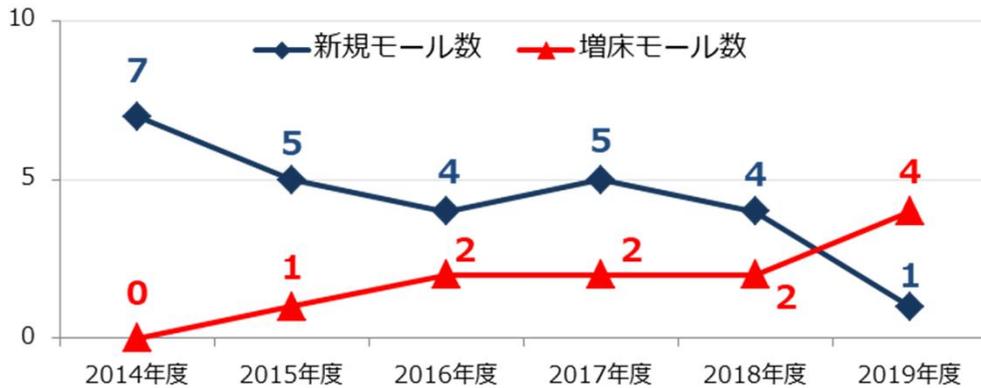
単位：百万円

	海外既存19モール		
		前期差	前期比
営業収益	33,718	+2,561	108.2%
1モール平均	1,775	+135	-
営業総利益	5,685	+2,638	186.6%
1モール平均	299	+139	-

日本 国内事業の取り組み

■ 新規・増床モール数推移

建設費が高止まりしており、新規出店は空白エリアへの出店に厳選し、より投資効率の高い増床リニューアルに経営資源を投入



■ 活性化の考え方

**イオンモールのモール年齢10.9年(平均)**  
**活性化によりさらに価値を向上**  
 既存モールの大規模活性化(リニューアル)を推進し、ショッピングモールの魅力・鮮度をアップし、収益力強化を図る



■ 2020年度新規オープン予定

年度	施設名称	所在地	オープン	敷地面積	総賃貸面積	駐車台数	専門店数
2020年度	(仮称) イオンモール上尾	埼玉県上尾市	2020年秋	約 68,000 m <sup>2</sup>	約 34,000 m <sup>2</sup>	未公表	約 130 店
	(仮称) イオンモール利府 新棟	宮城県宮城郡利府町	2020年冬	約 148,000 m <sup>2</sup>	約 69,000 m <sup>2</sup>	約 3,800 台	未公表

■ 2020年度増床オープン予定

年度	施設名称	所在地	増床オープン	敷地面積	総賃貸面積	駐車台数	専門店数
2020年度	イオンモール高崎	群馬県高崎市	2020年春	142,000 m <sup>2</sup>	約 76,000 m <sup>2</sup> (+約 17,000 m <sup>2</sup> )	約 4,000 台 (+約 300 台)	約 220 店 (+約 50 店)
	イオンモール高知	高知県高知市	2020年秋	75,000 m <sup>2</sup>	69,000 m <sup>2</sup> (+約 12,000 m <sup>2</sup> )	3,000 台 (+約 200 台)	約 170 店 (+約 30 店)

## ■イオンモールウォーキングの推進（ヘルス）

- 〇 天候に左右されず快適な館内で行うモールウォーキングを推進。
- 〇 健康増進を目的とする歩くライフスタイルの提案でスポーツ庁の「FUN+WALK PROJECT」と連携。

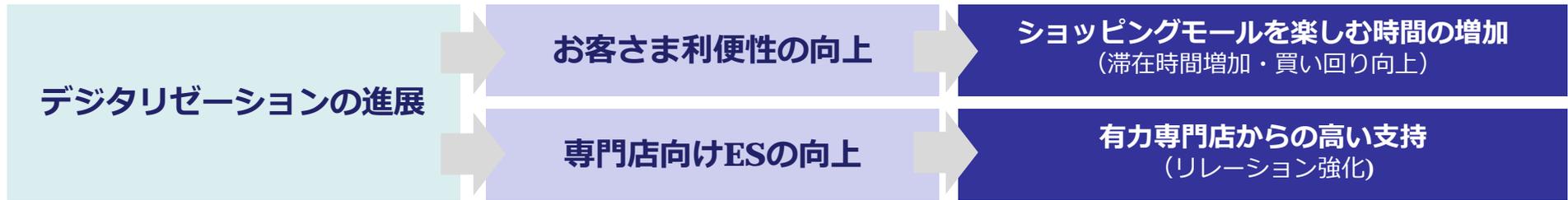


## ■オペラ de イオンモール（ウェルネス）

- 〇 公益財団法人日本オペラ振興会との協働により各モールで開催。
- 〇 2017年の初開催以降、63会場、約20,000人のお客さまが鑑賞。  
2019年度は30会場で開催。



モールづくりの方向性 デジタル化の推進



■デジタルを活用した新しい買い物体験



モールづくりの方向性 デジタル化の推進

■スマート・イオンモールの取り組み

イオンモール幕張新都心をパイロット店舗として、「ストレスフリー」「コンビニエンス」「情報発信力」「インバウンド対応」「省人・省力対応」の5つの視点から実証実験を行い、効果検証しながら全国のモールへ水平展開を図る。

【ストレスフリー】

- ・小型インフォメーション
- ・お買い物ナビ（店舗横断型商品検索システム）



【コンビニエンス】

- ・ショッピングモビリティ
- ・モバイルバッテリー貸出スポット
- ・全館無料Wi-Fi化



【情報発信力】

- ・両面シースルー天吊りバナー
- ・片面シースルーLEDフィルム



【インバウンド対応】

- ・翻訳機「ポケットーク」
- ・映像通訳タブレット（見える通訳）



【省人化】

- ・イオンモールワークス（業務改善タブレット）



モールづくりの方向性 地域のプラットフォーム



環境保全の取り組み



公共機能の拡充



防災拠点の役割



スマートシティ化の実現に向けて地域のプラットフォームとしての役割を担う

# 2019年度 連結数値計画

### ◆連結業績計画（2019年度）

	金額	前期比
営業収益	<b>3,260 億円</b>	<b>104.2 %</b>
営業利益	<b>620 億円</b>	<b>117.0 %</b>
経常利益	<b>540 億円</b>	<b>103.4 %</b>
親会社株主に帰属する 当期純利益	<b>337 億円</b>	<b>100.5 %</b>

設備投資額	<b>1,700 億円</b>
減価償却費 ※	<b>520 億円</b>

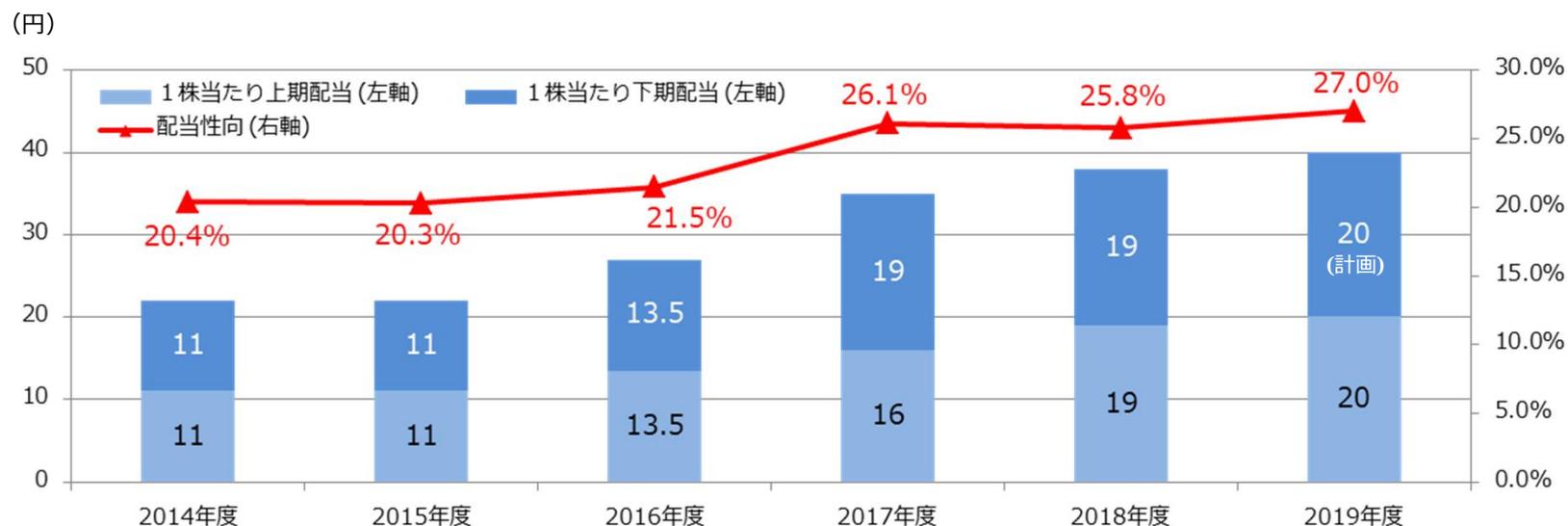
※長期前払費用の償却を含む。  
同条件の2018年度実績は528億円。

（ご参考）IFRS適用前基準の業績予想

	金額	前期比
	<b>3,260 億円</b>	<b>104.2 %</b>
	<b>570 億円</b>	<b>107.6 %</b>
	<b>550 億円</b>	<b>105.4 %</b>
	<b>347 億円</b>	<b>103.5 %</b>

当社は、2020年2月期の連結財務諸表から在外連結子会社に対して国際財務報告基準「リース」（IFRS第16号）を適用するため、2020年2月期の連結業績予想は同基準に基づき作成しております。

### ◆株主還元



**2019年度は1株当たり年間2円増配の40円、連結配当性向27.0%を計画。**

## ◆国際財務報告基準IFRSの最新基準 IFRS第16号適用の影響

2019年度より海外各国は上記基準に基づき、IFRS第16号を適用します。  
影響額は下記の通りとなります。

### 【P/L影響額】

	影響額
営業収益	—
営業利益	+50 億円
経常利益	▲10 億円
親会社株主に帰属する当期純利益	▲10 億円

### 【B/S影響額】 ※2019年11月末現在

	影響額	勘定科目
資産	+890 億円	使用権資産 +890億円
負債	+948 億円	営業未払金 ▲116億円 リース債務 +1,147億円 リース債務返済(3Q) ▲83億円
純資産	▲57 億円	利益剰余金(移行時) ▲129億円 利益減少(3Q) ▲8億円
負債・純資産	+890 億円	

# 国際財務報告基準「リース」について ( IFRS第16号)

## IFRS第16号の概要

### 1. 新リース会計基準（IFRS第16号）の適用

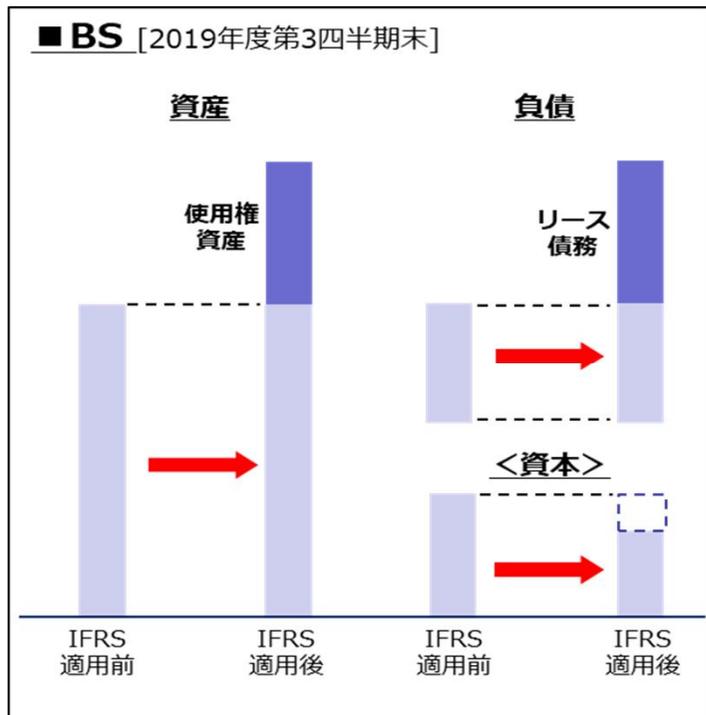
- ・2019年1月にIFRS（国際財務報告基準）において、新リース会計基準（IFRS第16号）がスタート。
- ・法的には賃貸借取引、会計上はリース取引を資金調達を伴う資産の取得として処理。
- ・当社グループでは、2019年度（2020年2月期）第1四半期（2019年3月1日）より、海外連結子会社適用。

### 2. IFRS第16号「リース」の概要（財務諸表への影響）

従来基準			新基準		
BS	PL	CF	BS	PL	CF
オフバランス	リース（賃借）料	営業CF	オンバランス	減価償却費 支払利息	営業CF 財務CF

- ①新リース会計基準適用日に、海外連結子会社の原則すべてのリースについて、資産および負債を認識し、BSに使用権資産とリース負債を計上。
- ②リース期間中の使用権資産にかかる減価償却費（定額）と、リース負債にかかる利息費用をPLに計上。従来のリース（賃借）料は計上しない。
- ③会計処理の変更により、キャッシュ・フローの表示区分が変更。

2019年度財務諸表への影響



海外連結子会社のリースについて資産および負債に計上。

<資産>

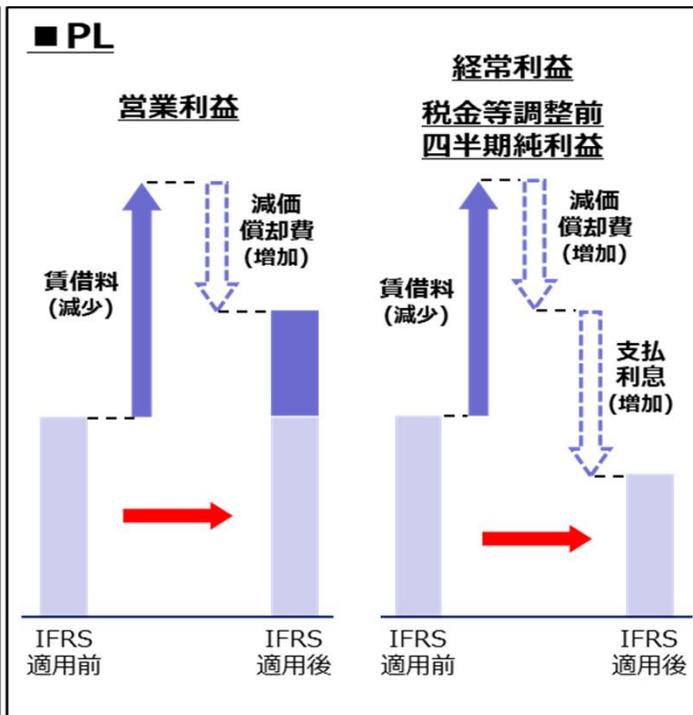
使用権資産	+	1,247億円
IFRS第16号影響額	+	890億円
「投資その他の資産」から科目変更	+	357億円

<負債>

リース債務	+	1,147億円
-------	---	---------

<資本>

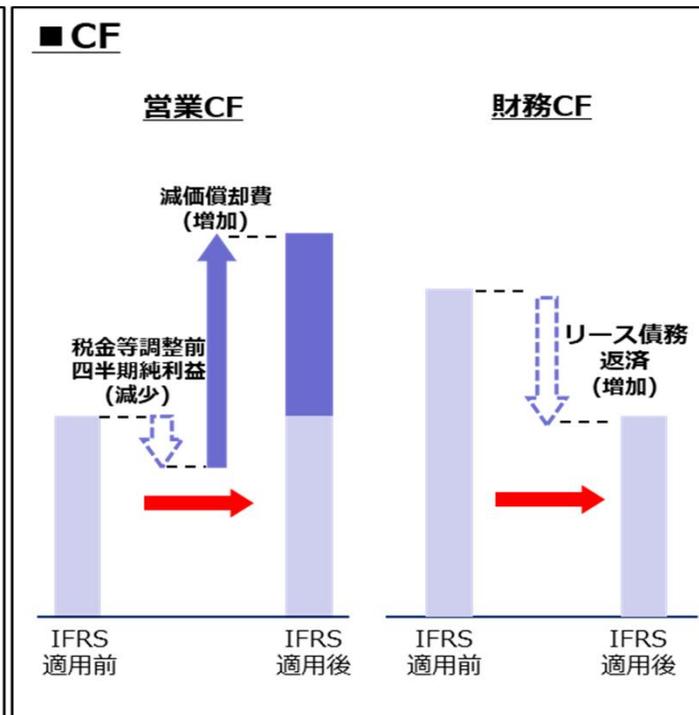
利益剰余金(移行時)	▲	129億円
------------	---	-------



従来の賃借料と新たに発生する減価償却費との差額が、営業原価、販売費及び一般管理費の減少となることから、営業利益は増加。リース債務にかかる支払利息を計上することから経常利益は減少。

【2019年度3Q影響額】

賃借料(減少)	+	131億円
減価償却費(増加)	▲	92億円
営業利益	+	39億円
支払利息(NET増加)	▲	48億円
経常利益	▲	8億円
税金等調整前 四半期純利益	▲	8億円



従来の賃借料処理がリース債務の返済処理となるため、営業活動によるキャッシュ・フローは増加、財務活動によるキャッシュ・フローは減少。

【2019年度3Q影響額】

<営業CF>	
税金等調整前四半期純利益	▲8億円
減価償却費	92億円
計	83億円
<財務CF>	
リース債務の返済	▲83億円
<現金及び同等物に係る換算差額>	0億円
<現金及び現金同等物の四半期末残高>	-億円

総資産、負債は増加するが、  
キャッシュ・フローの増減はない。

営業利益は増加するが、  
経常利益は減少となる。

キャッシュ・フローの増減は  
変化ないが、計上区分が変更となる。

# 添付資料 (モールデータ)

ショッピングモール (国内)

	モール名称	オープン日	総賃貸面積 (㎡)	駐車場台数	専門店数	土地/建物 所有	土地賃借/ 建物所有	土地/建物 賃借	PM受託
1	イオンモールつがる柏	1992年11月	40,000	2,600	90	◎			
2	イオンモール秋田	1993年9月	58,000	3,200	150	◎			
3	イオンモール富津	1993年9月	28,000	1,000	60			☆	
4	イオンモール下田	1995年4月	59,000	4,000	120	◎			
5	ショッピングモールフェスタ	1996年4月	32,000	3,800	90	◎			
6	イオンモール鈴鹿	1996年11月	70,000	4,200	180			☆	
7	イオンモール三光	1996年12月	40,000	2,500	70	◎			
8	イオンモール宇城	1997年11月	63,000	3,300	80			☆	
9	イオンモール倉敷	1999年9月	83,000	4,700	240			☆	
10	イオンモール成田	2000年3月	65,000	4,000	170			☆	
11	イオンモール岡崎	2000年9月	80,000	4,300	170		◎		
12	イオンモール川口前川	2000年11月	66,000	2,400	170			◎	
13	イオンモール高知	2000年12月	57,000	2,800	140			◎	
14	イオンモール新居浜	2001年6月	66,000	3,500	120		◎		
15	イオンモール東浦	2001年7月	75,000	4,600	170			☆	
16	イオンモール大和	2001年12月	35,000	1,900	90			☆	
17	イオンモール高岡	2002年9月	82,000	4,400	200		◎		
18	イオンモール伊丹	2002年10月	57,000	2,800	150			☆	
19	イオンモール盛岡	2003年8月	52,000	2,600	130			☆	
20	イオンモール太田	2003年12月	62,000	4,200	150			☆	
21	イオンモール京都五条	2004年3月	36,000	1,700	140			☆	
22	イオンモール広島府中	2004年3月	98,000	5,000	280	◎			
23	イオンモール橿原	2004年4月	80,000	5,000	230		◎		
24	イオンモール木曽川	2004年6月	66,000	4,400	170			◎	
25	イオンモール福岡	2004年6月	90,000	5,300	220			☆	
26	イオンモール浜松志都呂	2004年8月	65,000	3,500	160			☆	
27	イオンモール堺北花田	2004年10月	72,000	2,800	170			☆	
28	イオンモールりんくう泉南	2004年11月	76,000	4,300	170	◎			
29	イオンモール直方	2005年4月	58,000	3,400	140			☆	
30	イオンモール宮崎	2005年5月	84,000	4,300	250		◎		

☆流動化案件

	モール名称	オープン日	総賃貸面積 (㎡)	駐車場台数	専門店数	土地/建物 所有	土地賃借/ 建物所有	土地/建物 賃借	PM受託
31	イオンモール熊本	2005年10月	84,000	5,000	200			☆	
32	イオンモール水戸内原	2005年11月	78,000	4,100	200			☆	
33	イオンモール千葉ニュータウン	2006年4月	79,000	4,000	180			☆	
34	イオンモール高崎	2006年10月	59,000	3,700	170			☆	
35	イオンモールむさし村山	2006年11月	78,000	4,000	180			☆	
36	イオンモール鶴見緑地	2006年11月	54,000	2,200	160			☆	
37	イオンモール神戸北	2006年11月	55,000	4,000	160			☆	
38	イオンモール名取	2007年2月	80,000	4,500	240		◎		
39	イオンモール羽生	2007年11月	75,000	5,000	210	◎			
40	イオンモール日の出	2007年11月	64,000	3,600	160		◎		
41	イオンレイクタウンKaze	2008年10月	61,000	2,300	230			◎	
42	イオンモール草津	2008年11月	78,000	4,500	190		◎		
43	イオンモール筑紫野	2008年12月	80,000	3,800	210		◎		
44	イオンモール都城駅前	2008年12月	28,000	1,700	100			☆	
45	mozo wondercity	2009年4月	101,000	5,000	230				◎
46	イオンモール広島祇園	2009年4月	50,000	2,800	130		◎		
47	イオンモール新瑞橋	2010年3月	38,000	1,700	120			☆	
48	イオンモール大和郡山	2010年3月	67,000	4,100	170			☆	
49	イオンモールKYOTO	2010年6月	51,000	1,100	130			☆	
50	イオンモール甲府昭和	2011年3月	70,000	3,500	180			☆	
51	イオンモール大牟田	2011年3月	57,000	4,800	130	◎			
52	イオンレイクタウンアウトレット	2011年4月	23,000	1,100	130		◎		
53	広島段原ショッピングセンター	2011年9月	24,000	800	60			◎	
54	イオンモール福津	2012年4月	63,000	3,500	180			☆	
55	イオンモールつくば	2013年3月	64,000	4,000	200			☆	
56	イオンモール春日部	2013年3月	56,000	2,900	160			☆	
57	神戸ハーバーランドumie(ウミエ)	2013年4月	85,000	3,000	230				◎
58	イオンモール東員	2013年11月	58,000	3,500	155		◎		
59	イオンモール幕張新都心	2013年12月	128,000	7,300	360		◎		
60	イオンモール天童	2014年3月	47,000	3,000	130		◎		

☆流動化案件

	モール名称	オープン日	総賃貸面積 (㎡)	駐車場台数	専門店数	土地/建物 所有	土地賃借/ 建物所有	土地/建物 賃借	PM受託
61	イオンモール和歌山	2014年 3月	69,000	3,500	210			☆	
62	イオンモール名古屋茶屋	2014年 6月	75,000	4,100	200		◎		
63	イオンモール京都桂川	2014年10月	77,000	3,100	220			☆	
64	イオンモール木更津	2014年10月	84,000	4,000	160		◎		
65	イオンモール多摩平の森	2014年11月	24,000	1,000	130			☆	
66	イオンモール岡山	2014年12月	92,000	2,500	350			☆	
67	イオンモール旭川駅前	2015年 3月	29,000	900	130			◎	
68	イオンモール沖縄ライカム	2015年 4月	86,000	4,000	240		◎		
69	イオンモール四條畷	2015年10月	75,000	4,100	200		◎		
70	イオンモール常滑	2015年12月	87,000	4,000	180		◎		
71	イオンモール堺鉄砲町	2016年 3月	56,000	2,600	160		◎		
72	イオンモール今治新都市	2016年 4月	54,000	2,900	120	◎			
73	イオンモール長久手	2016年12月	59,000	2,600	200		◎		
74	カテプリ	2016年12月	13,000	1,800	60			◎	
75	イオンモール新小松	2017年 3月	63,000	3,400	170			☆	
76	イオンSENRITO専門館	2017年 4月	9,000	400	35			◎	
77	イオンモール徳島	2017年 4月	50,000	3,100	160		◎		
78	イオンモール神戸南	2017年 9月	39,000	1,400	130		◎		
79	イオンモール松本	2017年 9月	49,000	2,300	170	◎			
80	イオンモール座間	2018年 3月	50,000	2,500	160		◎		
81	THE OUTLETS HIROSHIMA	2018年 4月	53,000	4,000	200	◎			
82	イオンモールいわき小名浜	2018年 6月	50,000	1,300	130		◎		
83	イオンモール津南	2018年11月	60,000	3,400	170	◎			
84	イオン藤井寺ショッピングセンター	2019年 9月	15,000	470	65	◎			
国内 計			5,148,000	274,370	13,905	14	25	43	2

※上記以外にイオンリテール(株)の商業施設58施設(GLA 2,444,000㎡、専門店数7,220)の管理・運営を受託しております。

☆流動化案件

(2019年9月1日付でイオンリテール(株)12SCの管理・運営業務受託を終了)

ショッピングモール (中国)

	モール名称	オープン日	総賃貸面積 (㎡)	駐車場台数	専門店数	土地/建物 所有	土地賃借/ 建物所有	土地/建物 賃借	PM受託
1	イオンモール北京国際商城(中国)	2008年11月	54,000	3,000	120			◎	
2	イオンモール天津TEDA(中国)	2010年10月	55,000	2,500	130			◎	
3	イオンモール天津中北(中国)	2012年4月	65,000	3,900	150			◎	
4	イオンモール天津梅江(中国)	2014年1月	62,000	2,400	170			◎	
5	イオンモール蘇州吳中(中国)	2014年4月	75,000	3,100	200			◎	
6	イオンモール武漢金銀潭(中国)	2014年12月	74,000	3,000	200			◎	
7	イオンモール蘇州園区湖東(中国)	2015年5月	75,000	3,000	200	◎			
8	イオンモール北京豊台(中国)	2015年9月	62,000	2,500	180			◎	
9	イオンモール杭州良渚新城(中国)	2015年11月	68,000	2,500	180	◎			
10	イオンモール武漢經開(中国)	2015年12月	101,000	4,000	300	◎			
11	イオンモール広州番禺広場(中国)	2015年12月	64,000	1,600	170			◎	
12	イオンモール蘇州新区(中国)	2016年1月	74,000	3,300	280			◎	
13	イオンモール河北燕郊(中国)	2016年11月	70,000	2,700	200			◎	
14	イオンモール天津津南(中国)	2017年10月	70,000	2,600	210			◎	
15	イオンモール南通星湖(中国)	2017年12月	77,000	3,000	280			◎	
16	イオンモール武漢金橋(中国)	2017年12月	55,000	1,700	190			◎	
17	イオンモール佛山大瀝(中国)	2017年12月	69,000	2,700	240			◎	
18	イオンモール煙台金沙灘(中国)	2018年5月	72,000	2,700	220	◎			
19	イオンモール広州金沙(中国)	2018年11月	65,000	3,000	170			◎	
20	イオンモール常熟新区(中国)	2019年6月	63,000	3,800	180			◎	
21	イオンモール青島西海岸新区(中国)	2019年11月	70,000	2,600	240			◎	

ショッピングモール (アセアン)

	モール名称	オープン日	総賃貸面積 (㎡)	駐車場台数	専門店数	土地/建物 所有	土地賃借/ 建物所有	土地/建物 賃借	PM受託
1	イオンモール タンフーセラドン(ベトナム)	2014年1月	84,000	2,000	200				◎
2	イオンモール ビンズオンキャナリー(ベトナム)	2014年11月	49,000	1,000	150			◎	
3	イオンモール ロンビエン(ベトナム)	2015年10月	72,000	1,000	180	◎			
4	イオンモール ビンタン (ベトナム)	2016年7月	60,000	1,500	150			◎	
5	イオンモール ハドン (ベトナム)	2019年12月	74,000	2,100	220	◎			
6	イオンモール プノンベン(カンボジア)	2014年6月	68,000	2,300	190	◎			
7	イオンモール センソック シティ(カンボジア)	2018年5月	85,000	2,300	200	◎			
8	イオンモールBSD CITY(インドネシア)	2015年5月	77,000	2,100	280	◎			
9	イオンモール ジャカルタ ガーデンシティ (インドネシア)	2017年9月	63,000	3,000	220	◎			
海外計			2,072,000	76,900	6,000	10	0	19	1
合計			7,220,000	351,270	19,905	24	25	62	3

※2020年1月9日現在

	モール名称	オープン日	総賃貸面積 (㎡)	専門店数
1	三宮オーパ	1969年11月	5,500	23
2	天神ビブレ	1976年11月	10,700	74
3	横浜ビブレ	1985年 4月	18,500	109
4	仙台フォーラス	1984年11月	14,500	103
5	心齋橋オーパ	1994年11月	11,200	90
	オーパきれい館	1998年 8月	2,300	心齋橋オーパに含む
6	北大路ビブレ	1995年 3月	22,800	93
7	湘南藤沢オーパ	1996年 3月	9,500	56
8	キャナルシティオーパ	1996年 4月	15,300	102
9	明石ビブレ	1997年10月	18,100	65
10	新百合丘オーパ	1997年11月	12,700	76
11	河原町オーパ	1998年11月	9,700	92
12	聖蹟桜ヶ丘オーパ	1999年 9月	16,000	51
13	ワールドポーターズビブレ	1999年 9月	17,900	66
14	金沢フォーラス	2006年11月	26,100	188
15	ビブレジーンレイクタウン	2008年 9月	2,900	20
16	梅田オーパ	2013年 4月	2,700	7
17	三宮オーパ2	2017年 2月	11,700	48
18	水戸オーパ	2017年 3月	12,100	55
19	秋田オーパ	2017年10月	11,100	67
20	高崎オーパ	2017年10月	25,600	157
21	那覇オーパ	2018年10月	5,200	50
22	八王子オーパ	2018年11月	6,100	39
23	大分オーパ	2019年 6月	3,800	47
24	名古屋mozoオーパ	2019年 10月	3,200	9
都市型ショッピングセンター 計			295,200	1,687

※2020年1月9日現在